

Yamagata Symphony Orchestra  
Your Town Concert in Yonezawa

Your  
Town  
Concert  
2023

# 山響 ユアタウン コンサート 2023

山形交響楽団 特別演奏会



米沢公演

2024 1/8 月・祝

15:00開演

14:45よりプレ・コンサート・トーク

伝国の杜 置賜文化ホール

新春に輝くストラディヴァリウスの響き 外村理紗のチャイコフスキー & 絶賛を博す阪哲朗のウィннаワルツ



©Kazuhiro Suzuki

©Kazuhiro Suzuki

主催：公益社団法人 山形交響楽協会・米沢市教育委員会・公益財団法人 米沢上杉文化振興財団 特別協賛：山形新聞・山形放送  
後援：山形県・山形県教育委員会・山形新聞・山形放送・山形テレビ・テレビユー山形・さくらんぼテレビ・NHK山形放送局  
協力：日本音楽財団 特別協力：日本財団  
助成：文化庁文化芸術振興費補助金  
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))  
独立行政法人日本芸術文化振興会

日本音楽財団  
NIPPON MUSIC FOUNDATION

Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

文化庁  
Agency for Cultural Affairs,  
Government of Japan

山形交響楽団特別演奏会

ユアタウンコンサート米沢公演

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」K. 492 序曲 (約5分)  
Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) : Le nozze di Figaro (The Marriage of Figaro) , K. 492: Overture

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35 (約32分)  
Pyotr Il'yich Tchaikovsky (1840-1893) : Violin Concerto in D Major, Op. 35

- I. Allegro moderato
- II. Canzonetta: Andante
- III. Finale: Allegro vivacissimo

休憩 Intermission (15分)

ヨハン・シュトラウスII世：喜歌劇「ジプシー男爵」序曲 (約9分)  
Johann Strauss II (1825-1899) : Der Zigeunerbaron (The Gypsy Baron) : Overture

ヨハン・シュトラウスII世：アンネン・ポルカ 作品117 (約4分)  
Johann Strauss II (1825-1899) : Annen-Polka, Op. 117

ヨハン・シュトラウスII世：ワルツ「春の声」作品410 (約8分)  
Johann Strauss II (1825-1899) : Frühlingsstimmen (Voices of Spring) , Op. 410

ヨハン・シュトラウスII世：エジプト行進曲 作品335 (約5分)  
Johann Strauss II (1825-1899) : Egyptischer, Op. 335

ヨハン・シュトラウスII世/ヨーゼフ・シュトラウス：ピッツィカート・ポルカ (約3分)  
Johann Strauss II (1825-1899) / Josef Strauss (1827-1870) : Pizzicato-Polka

ヨハン・シュトラウスII世：ワルツ「皇帝円舞曲」作品437 (約12分)  
Johann Strauss II (1825-1899) : Kaiser-Walzer (Emperor Waltz) , Op. 437

ヴァイオリン 外村 理紗  
指揮 阪 哲朗  
コンサートマスター 犬伏 亜里

Violin : Risa Hokamura  
Conductor : Tetsuro Ban  
Concertmaster : Ari Inubushi

2024年1月8日(月・祝) 15:00 伝国の杜 置賜文化ホール ※14:45よりプレ・コンサート・トーク

お客様へのお願い

- 演奏中に時計や携帯電話のアラーム等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。また、携帯電話の電源はお切りください。
- 演奏中の出入りはご遠慮ください。
- 会場内での飲食、録音・録画、演奏中の写真撮影は固くお断りいたします。
- 手荷物、傘、チラシ類などの物音、私語、キーホルダーの鈴やアメの包み紙の音等、他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願いいたします。周囲のお客様の通行・視界の確保にもご配慮ください。

すべてのお客様に気持ち良くご鑑賞いただけますよう、皆様には引き続き、基本的な感染症対策にご理解・ご協力いただけますよう、何卒ご配慮のほどお願い申し上げます。



ヴァイオリン 外村 理紗

Violin Risa Hokamura

3歳でヴァイオリンを始め、7歳から小林健次氏に学び、東京音楽大学付属高等学校を特別特待奨学生として卒業した。現在、マンハッタン音楽学校のクラシック・ヴァイオリン演奏科フルスカラシップ生として原田幸一郎とルーシー・ロバートの各氏に師事。同時に東京音楽大学アーティストディプロマコースでも特別特待奨学生として原田幸一郎、神尾真由子、小栗まち絵の各氏に師事している。

10歳から日本国内の様々なコンクールで最高位を受賞。2017年、第86回日本音楽コンクール第2位。2018年、アメリカの第10回インディアナポリス国際ヴァイオリンコンクールに出場し第2位(最年少ファイナリスト)を受賞、日本人としては6大会24年ぶりの入賞となった。同年、ニューヨークで開催されたYoung Concert Artists International Auditionで優勝したことにより、マネジメント契約とニューヨーク、ワシントン、ボストンでのデビューリサイタルの機会を得た。

これまでインディアナポリス交響楽団、イーストコースト・チェンバーオーケストラ、マンシー交響楽団、グリーンズボロ交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、札幌交響楽団などと共演し、技量の高さとしなやかな自然さを披露している。

NHK-FM「今日は一日“ありがとうFM50”三昧 クラシック編」、「リサイタル・パッシオ」、BSテレビ東京「エンター・ザ・ミュージック」などメディアにも多数出演している。

2018年度・2019年度 ローム ミュージック ファンデーション奨学生。第47回江副記念リクルート財団奨学生。

日本音楽財団より、1715年製のストラディヴァリウス「ヨアヒム」を貸与されている。

ストラディヴァリウス1715年製ヴァイオリン「ヨアヒム」

この楽器は、19世紀ハンガリー出身の名ヴァイオリン奏者ヨーゼフ・ヨアヒム(1831~1907)が所有していたストラディヴァリウス1715年製ヴァイオリン3挺の内の1つである。また、ヨアヒムからヴァイオリンのレッスンを受けていた彼の兄弟の孫娘アデラ・ダラーニ(d'Aranyi)に遺贈されたことから「ヨアヒム=アラニ」(Jochim-Aranyi)という名前でも知られている。日本音楽財団が購入するまでは、アデラの遺族によって代々受け継がれてきた。



日本音楽財団

日本音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として、弦楽器名器の貸与事業を行っています。保有する世界最高クラスの弦楽器21挺(ストラディヴァリウス製ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン2挺)を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、これら世界の文化遺産ともいわれる名器を次世代に継承するための保守・保全を行っています。また、楽器被貸与者による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。

アンケートご協力をお願い

携帯、スマートフォンからQRコードで簡単アクセス!

山形交響楽団では、皆さまにより良い演奏をお届けするため、アンケートを実施しております。QRコードよりアンケートへのご協力をお願いいたします。





指揮 阪 哲朗

Conductor Tetsuro Ban

京都市立芸術大学作曲専修で廣瀬量平氏らに師事。卒業後に渡欧。ウィーン国立音大指揮科でK.エステルライヒャー、湯浅勇治氏らに師事。在学中よりビル歌劇場専属指揮者を務める。これまでにブランデンブルク歌劇場第一指揮者、コミッシェーパー専属指揮者、アイゼナハ歌劇場並びにレーゲンスブルク歌劇場で音楽総監督を歴任。ソフィア歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、グラーツ歌劇場、バーゼル歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場などヨーロッパ各地の約40に及ぶオーケストラ、歌劇場に招かれ成功を収めている。日本においては、NHK交響楽団をはじめとする主要オーケストラ、新国立劇場、二期会などのオペラ団体を指揮している。毎年8月に開催されるレヒ音楽祭(オーストリア)では、2016年から毎回招かれている。現在、山形交響楽団常任指揮者、びわ湖ホール芸術監督、京都市立芸術大学音楽学部指揮専攻教授。山形大学での公開講座や東京藝術大学、国立音楽大学より特別招聘教授として招かれるなど、後進の指導にも力を注いでいる。第44回ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。96年京都府文化賞奨励賞、97年ABC国際音楽賞、2000年京都市芸術新人賞、ホテルオークラ音楽賞、04年渡邊暁雄音楽基金音楽賞、06年藤堂顕一郎音楽賞、20年京都府文化賞功労賞受賞。

山形交響楽団

Yamagata Symphony Orchestra

1972年、東北初のプロ・オーケストラとして誕生。東京・大阪での「さくらんぼコンサート」など年間150回の公演を実施している。2007年から2015年まで「アマデウスへの旅」(モーツァルト交響曲全曲演奏会)を開催。2008年アカデミー賞映画「おくりびと」に出演。2017年「モーツァルト交響曲全集」を発売、2020年6月より「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」をスタートし、全集DVD制作とインターネット配信を通じて新たな魅力を発信している。2022年、創立50周年を迎えた。2023年12月からは、動画配信サービス「U-NEXT」での映像配信を開始。常任指揮者 阪哲朗、首席客演指揮者 鈴木秀美、ミュージック・パートナー ラデク・バボラー久、創立名誉指揮者 村川千秋、桂冠指揮者 飯森範親、名誉指揮者 黒岩英臣。オフィシャル・ウェブサイト <https://www.yamakyo.or.jp/>



ソロ・コンサートマスター

高橋 和貴

首席コンサートマスター

犬伏 亜里

コンサートマスター

平澤 海里

第1ヴァイオリン

五十嵐さやか  
石井万里子  
沈 青  
豊田 泰子  
中島 光之  
蜂谷ゆかり

第2ヴァイオリン

★ヤンネ館野  
★堀越 瑞生  
今井 東子

黒瀬 美

常盤 郁子  
丸山 倫代  
・松田 佳奈  
・村井 薫

ヴィオラ

★成田 寛  
★山中 保人  
井戸 健治  
倉田 譲  
田中 知子

チェロ

★小川 和久  
★矢口里菜子  
久良木夏海  
邢 広京  
茂木 明人  
渡邊研二郎

コントラバス

★三崎屋義知  
柳澤 智之  
米山 明子

フルート

★知久 翔  
小松崎恭子

オーボエ

★柴田 祐太  
土屋 愛菜

クラリネット

★川上 一道  
本田有里恵

ファゴット

★上野 健  
鷺尾 俊也

ホルン

★梅島 洸立  
☆向 なつき  
岡本 和也  
小椋 陽咲  
関谷 智洋

トランペット

★井上 直樹  
松岡 恒介

トロンボーン

★太田 涼平  
篠崎 唯

バス・トロンボーン

高橋 智広

チューバ

★久保 和憲

ティンパニ&パーカッション

★常盤 紘生  
平下 和生  
三原 千加  
・青木 紗央  
・安藤 巴  
・武田 怜奈

ハープ

・見尾田絵里子

ステージマネージャー

南條 幸照

ライブラリアン

清水 香織

★ 首席奏者  
☆ 客演首席奏者  
・ 客演奏者

モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」K.492 序曲

「フィガロの結婚」は、モーツァルトのオペラの中で、もっとも広く親しまれているものです。モーツァルトの音楽は生き生きした人物描写において、また深い感情表現において、単なる喜歌劇の域をはるかに超えたすばらしいものです。物語は、理髪師のフィガロとその花嫁である小間使いのスザンナが、才智をめぐらして好色な殿様から一本を取る、という楽しいものです。貴族社会を痛烈に批判した上演がなぜ可能だったのかは定かではありません。序曲は、序奏なしに速い速度で開始されます。ファゴットと弦楽器による笑いさざめくような主題をもとに快活に機嫌よく進み、高音の管楽器がそれを受け、それらをもう一度繰り返すと全奏になり激しい音の流れになります。民謡風な第2テーマののどかな歌が、やはりファゴットとヴァイオリンにより提示されます。短いつなぎのあと主部が再現します。コーダは力を込めて書かれ、生命力に満ちた盛り上がりを見せます。全曲の雰囲気を見事に伝える序曲中の傑作と言えましょう。



チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲ニ長調 作品35

この曲は、アドルフ・プロズキーによって初演されました。ところがこの初演は大失敗。評論家たちはいっせいに酷評しました。しかし、プロズキーはめげずに根気強くこの曲を紹介して回ったので、この協奏曲は次第に人気が高まり、多くのヴァイオリニストが演奏するようになりました。現在では、ベートーヴェン、メンデルスゾーン、ブラームスとならんで最も人気のあるヴァイオリン協奏曲となっています。この曲の特徴は、いかにもロシア的な地方色と、チャイコフスキー独特の哀愁あふれる耽美なメロディが次々に現れることにあります。曲は、短い瞑想的なオーケストラ序奏のあと、独奏ヴァイオリンがレチタティーヴォのような経過句を経て、柔らかく伸びやかなテーマを歌い出し、これを中心として展開する第1楽章、弱音器を付けた独奏ヴァイオリンが、実にノスタルジックで甘美な歌を切々と歌う第2楽章、前楽章から切れめなしに、突如荒々しいオーケストラの合奏で開始され、独奏ヴァイオリンがカデンツァに続き、エネルギーで奔放なロシア的な舞曲をいきいきと提示し熱狂的に閉じる終楽章の、3つの楽章からなっています。



J.シュトラウス二世：喜歌劇「ジプシー男爵」序曲

物語は18世紀初頭のハンガリーが舞台。ザッフィ(かつてはこの地方を治めていたトルコの総督の娘)と、バリンカイ(亡命を余儀なくされた豪族の息子、自称「ジプシー男爵」)の恋愛と宝さがしをめぐる楽しいストーリーがエキゾチックな音楽とともに目まぐるしく展開します。この序曲には劇中で使われているさまざまなメロディが登場します。まず弦楽器による力強いメロディが始まります。続いてクラリネットによるエキゾチックな旋律が現れます。次いで、



オーボエによるのどかな旋律となり穏やかな雰囲気になります。次はポルカ風の明るく楽しい旋律。次第に盛り上がり、優美なワルツが登場します。このワルツは「宝のワルツ」としてもよく知られています。その後、荒々しいロマ族の舞曲、舟唄と続きます。再び「宝のワルツ」が現れ、締めくくりはチャールダーシュ(ハンガリーの民族舞曲)で盛り上がり、終わります。

## J.シュトラウスⅡ世：アンネン・ポルカ 作品117

ポルカは、2拍子の軽快な民族舞曲です。名称はチェコ語のポルシュカ(ポーランド娘)に由来するといわれています。アンネン・ポルカは訳すと「アンナのポルカ」。すべてのアンナさん達のためにという意味合いなのでしょうか。当時のオーストリア皇帝フェルディナントⅠ世の皇后マリア・アンナのため、あるいは、シュトラウスⅡ世の母アンナ・シュトラウムのために書かれたとか、いろいろ説はありますが、いずれにしてもチャーム的な旋律と軽快なリズムが特徴の、華やかで楽しい音楽です。

## J.シュトラウスⅡ世：ワルツ「春の声」作品410

1883年、シュトラウスは自作の喜歌劇を指揮するためにブダペストにいました。そうしたある日、晩餐会に招かれた彼は、そこでリストと同席することになりました。もともとの知り合いで、父ヨハンⅠ世とも親しかったリストが、余興にその家の女主人と連弾を楽しむのを聴いているうちに、シュトラウスは即興的にワルツを作り上げ、さらにその場に居合わせた脚本家のジェネーが、これも即興的に詞をつけてできたのがこの曲です。3回目の幸せな結婚へ結びつく新しい恋のためか、作曲者58歳とは思えない若々しい曲になりました。曲は、短い前奏、3つの小ワルツ、コーダという構成になっています。

## J.シュトラウスⅡ世：エジプト行進曲 作品335

この曲の初演時の題名はコーカサス地方の少数民族チェルケス人の名を使った「チェルケス行進曲」というものでした。その後エジプトで大きな出来事がおこりました。スエズ運河開通祝典が行われたのです。この出来事はヨーロッパの人々を刺激し、東方への興味を掻き立てました。こうした雰囲気の中で、シュトラウスⅡ世もスエズ運河開通にちなんで「チェルケス行進曲」を「エジプト行進曲」と改題し、バーデン大公フリードリヒⅠ世に献呈しました。曲は、増2度というエキゾチックな音程を多用する音楽で、静かに遠くから聞こえてくる行進が、次第に盛り上がりクライマックスを作り、最後に静かに遠くへ去って行くという解りやすい構成となっています。中間部は長調に転じますが例の音程が消えることはありません。

## J.シュトラウスⅡ世/ヨーゼフ・シュトラウス： ピッツィカート・ポルカ

1855年以来毎年夏、シュトラウス3兄弟(ヨハン、ヨーゼフ、エドゥアルトⅠ世)はときには交互に、ときにはいっしょにロシアのサンクトペテルブルグ郊外のパヴロフスクへ出かけていました。この曲がヨハンとヨーゼフの2人によって作られたのも、そうした機会でした。ピアノで連弾をしているうちに出来たそうです。全曲が、本来は弓でひく弦楽器の弦を指ではじいて音を出す演奏技法(ピッツィカート)のみで作られたユニークな楽曲。このわずか3分の楽曲をいっただいどう分担して合作したのか不思議ではあります。管楽器等は最初と最後に強調するために奏されます。

## J.シュトラウスⅡ世：ワルツ「皇帝円舞曲」作品437

この曲が作られた当時、60歳を過ぎたシュトラウスは豪勢な生活をしていました。ウィーンだけでも数軒の家を持ち、本宅は石造りの3階建て。書斎にはパイプオルガンもあったそうです。このまさに「皇帝」の名にふさわしい堂々としたワルツは、そういう環境で作曲されました。イントロダクションと4つのワルツ、コーダからできています。出だしは、ゆっくりとした行進曲。第1ワルツは主賓のカップルだけが踊るゆったりしたもの。その後一般の参加者が踊る華やかなものになります。第2ワルツは、優しいステップの上品なもの。第3ワルツは、力強い導入の後優しさと力強さが交互に表れます。第4ワルツは、リズムが強調されるフレーズと美しいメロディとの対比が面白い曲です。コーダは第1、第3のワルツを中心に組み立てられています。

石川 浩 (作曲家)

### 山響主催公演で舞台上のカーテンコールを撮影していただけます

一度退場した指揮者・ソリストが再登場したら撮影が可能です。  
SNSに掲載の際は、ハッシュタグ「#山響」「#山形交響楽団」をつけてコンサートの感想をお願いいたします!(他のお客様の映り込みにはご注意ください。)

- アンコール演奏中の撮影はご遠慮ください。
- 撮影はご自席からとし、カメラを高く掲げる、自撮り棒・三脚・望遠レンズ等を使用するなど、周囲のお客様のご迷惑となるような行為はお控えください。
- 撮影前にフラッシュの設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。
- 演奏中はスマートフォン、携帯電話の電源をお切りください。

